

水曜コラム+

## 日銀いよ金融教室 第108回：「消費増税前の家計支出動向」

2019年8月14日（水）（愛媛新聞 E 4 編集係）

今回は、「経済・物価情勢の展望（展望レポート、7月日銀公表）」で分析しています。「消費増税前の家計支出の動向」について、取り上げます。

同レポートでは、2019年10月に予定される消費増税に伴う駆け込み需要の発生状況について、2014年4月の前回消費増税時と比較しながら、最近の家計支出関連指標の動きを分析しています。

まず、個人消費の動向を包括的に捉える消費活動指数では、振れを伴いつつも、前回増税時と同程度のペースで増加してきています。もっとも、これには、大型連休に伴う旅行需要の増加等のサービス消費の押し上げが寄与しており、駆け込み需要の影響だけとは言えない面があります。そこで財別の動きをみますと、一般的に駆け込み需要の影響を受けやすい耐久消費財では、総じてみれば前回増税時に比べ盛り上がりは限定的となっていますが、一部に増税前の駆け込みとみられる需要増加も観察されています。例えば、自動車販売では、供給制約の影響等から振れを伴いつつも、足もとにかけて幾分増勢が強まっています。これには、前回増税時ほどではないにせよ、新車投入効果にも後押しされた駆け込み需要の発生が、何がしか影響しているとみています。また、家電販売においても、一部住宅の駆け込み需要の誘発効果もあり、エアコン等の販売が好調なほか、一部ソフトウェアのサポート期限切れもあって、パソコンの買い替え需要も増えるなど、徐々に駆け込みの動きが顕在化しつつあります。他方、非耐久財では、消費税率引き上げの直前にならないと、駆け込み需要が発生しにくい面もあり、現時点ではその動きは殆どみられていません。

また、住宅投資では、先行指標の新設住宅着工戸数をみますと、総戸数では消費増税前の盛り上がりは殆ど観察されていない中で、持家と分譲戸建では、前回増税時対比では抑制的ながら、このところはっきりと増加しています。

以上のように、一部の家計支出には、駆け込みの動きもみられますが、その規模は前回増税時と比べ限定的です。県内においても、足もと、こうした駆け込みの動きは一部高額品等に止まっているとみています。

今回の消費税率引き上げは、前回増税時と比べると、税率引き上げ幅が小さいことや、政府の消費税率引き上げに伴う対応などもあって、その下押し効果は小幅なものにとどま

ることが予想されます。もっとも、消費税率引き上げが経済に及ぼす影響は、その時々  
の消費者マインドや雇用・所得環境などによって変化し得ます。その動向については引き  
続き注視して参ります。

(日本銀行松山支店長・堂野敦司氏)